

大雨や強風等による情報、危険を理解しておこう!



◆ 雨の降り方と気象予報の関係

● 大雨注意報・大雨警報

大雨により浸水被害や土砂災害が発生するおそれがあると予想されるときに気象庁から発表されます。

特に土砂災害は雨がやんでも危険はしばらく残ることがあるため、警報等の発表が継続されることがあります。

● 洪水注意報・洪水警報

大雨や長雨などにより河川が増水し、河川の氾濫や堤防の損壊・決壊など重大な災害が発生するおそれがあると予想されるときに気象庁から発表されます。

雨の強さと降り方	
1時間雨量 (mm)	周囲の状況
10以上～20未満 やや強い雨	ザーザーと降る。 地面一面に水たまりができる。
20以上～30未満 強い雨	どしゃ降り。傘をさしていてもぬれる。
30以上～50未満 激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。 道路が川のようになる。
50以上～80未満 非常に激しい雨	滝のように降る。傘は全く役に立たなくなる。 車の運転は危険。
80以上～ 猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。 恐怖を感じる。

◆ 注意報や警報の意味を理解しておこう

気象庁は、大雨や強風などによって災害が起こるおそれのあるときは、その危険度に応じて「注意報」、「警報」、「特別警報」を発表して注意や警戒を呼びかけます。これら注意報・警報・特別警報は、都道府県や市町村へ伝達され防災活動等に利用されるほか、市町村や報道機関を通じて住民へ伝えられます。八郎瀧町は「秋田中央」地域となります。

名称	発表基準	種類
注意報	災害が起こるおそれのあるとき	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪
警報	重大な災害が起こるおそれのあるとき	大雨(土砂災害、浸水害)、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮
特別警報	重大な災害が起こるおそれが著しく大きいとき	大雨(土砂災害、浸水害)、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮

※注意報や警報は、予想される現象が発生するおおむね3～6時間前に発表することとされています。(ただし短時間の強い雨に関する大雨警報・注意報及び洪水警報・注意報については、おおむね2～3時間前に発表することとされています。)

◆ 避難時の心得

● 正確な情報収集と自主的避難を

テレビ・ラジオ・インターネットなどで最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意しましょう。雨の状況や浸水の状況に注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

● 要配慮者の避難にご協力を

高齢者、しょうがいのある方などは早めの避難が必要です。隣近所の要配慮者の避難にご協力ください。

● 車での避難は控えましょう

交通渋滞の原因や緊急車両の妨げになるほか、渋滞に巻き込まれて避難できない可能性もあります。また、車が水に浸かると動かなくなったり、水圧でドアが開かなくなったりして危険です。

● 垂直避難とは(2階避難)

災害時に身に危険が迫っているが、安全な場所まで避難する時間がない場合、安全な場所と空間を確保するために上下垂直方向に避難することをいいます。

● 逃げ遅れた場合は高い建物に避難しましょう

万が一逃げ遅れた場合は、丈夫な建物の3階以上に避難しましょう。



◆ 避難情報と取るべき行動

八郎瀧町では、秋田県や気象庁が観測する馬場目川の水位や雨量情報を監視するとともに、警戒活動等により情報収集を行い、災害の発生するおそれが高まったと判断されたときに、下記の種類の避難情報を発令します。避難情報は必ずしもこの順番で発令されるとは限りません。また、これらの情報が発令されていなくても、最新の気象情報等をこまめに確認し、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。

避難情報では、状況により避難が必要な区域や開設した指定避難所等をお知らせします。

種類	発令時の状況	取るべき行動
高齢者等避難	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難。 その他の人は、避難の準備を整える。 また自主避難を開始する。
避難指示	災害のおそれがたかい	危険な場所から、速やかに避難先へ避難する。
緊急安全確保	災害が発生または切迫	すでに災害が発生している状況であり、 命の危険がある。 命を守るため最善の行動をとる。 命の危険、直ちに安全確保を。

八郎瀧町が発令するこれらの避難情報は、テレビのデジタル放送やメール配信などで確認することができます。

◆ 水害・土砂災害の避難行動(災害時のタイムライン)

